Mahā Vairocana

マハー・ヴァイローチャナ
大日如来(摩訶毘盧遮那如来)

学報 2014 Jan Vol.69

特集
NEW TYPE Religious Awakening File#002
—発心したニュータイプ僧侶—
3回生 今雪 雅子さん

KOYASAN UNIV.
高野山大学
http://www.koyasan-u.ac.jp

Mahā Vairocana 大日如来(摩訶毘盧遮那如来) マハー・ヴァイローチャナ
高野山大学 学報 Vol.69
2014年1月日(年2回)発行
発行人/和田 友伸 編集/企画課
発行所/高野山大学 〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山385
TEL.0736-56-2921(代) FAX.0736-56-2746
印刷所/ヨシダ印刷株式会社

Words of Wisdom by Kūkai File#02

Associate Professor Thomas Eijō Dreitlein T・ドライトライン 准教授

遊山慕仙詩幷序 性靈集巻第一

眷屬猶如雨 遮那坐中央
遮那阿誰號 本是我心王

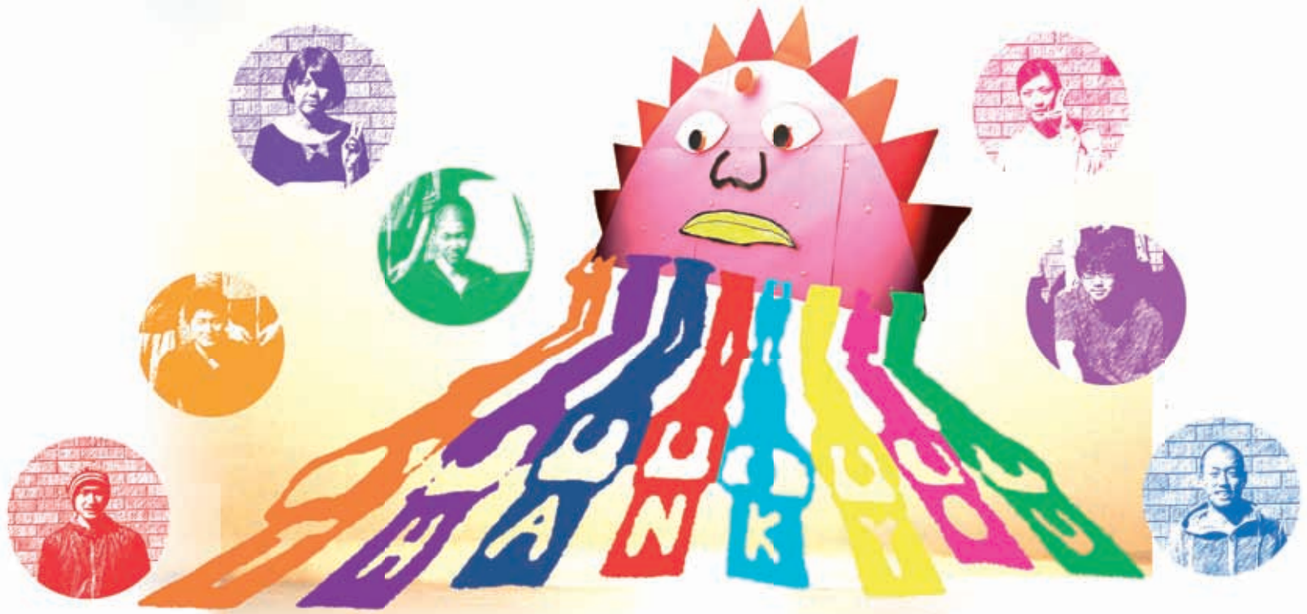
三密遍刹土 虚空嚴道場
山毫點溟墨 乾坤經籍箱
萬象含一點 六塵閲縑緗

眷屬は猶し雨の如し 遮那は中央に坐す
遮那は阿誰が号ぞ 本是れ我が心王なり
三密 刹土に遍し 虚空に道場を厳る
山毫溟墨を点ず 乾坤は経籍の箱なり
万象一点に含み 六塵縑緗に閲ぶ
山に遊んで仙を慕う詩并に序（性霊集巻第一）

Surrounded by his retinue as [numerous as] the rains,
Vairocana sits in the center [of the maṇḍala].
Who is called Vairocana?
He is the source of your own mind.
The three mysteries pervade all worlds,
And are arrayed as the seat of enlightenment in empty space.
Inscribed with the brush of Mt. Sumeru and the ink of the seas,
The world itself is a *sūtra* book.
All phenomena are encompassed in even a single point therein,
And the six sense objects are all included within its covers.
From Yama ni asonde sen o shitau shi narabi ni jo,
in Shōryō shū fasc. 1 (TKZ 8.10)

法身仏大日如来は万象の本源であり、心の主体である。大日如来の身口意という妙なる三つの働きである三密は、限りない空間にあまねく広がり、その中で曼荼羅として荘厳する。あたかも須弥山を筆にし、大海のすべての水を墨にして、大宇宙の画板にこの曼荼羅が書き込まれたごとくである。そのような宇宙は法身仏によって書き込まれた書籍のようなものである。その中の一字にも一点にも世界に現れるすべての現象が含まれている。一切は法身仏の本初的なコトバの展開であり、それにまた還元していく。『声字実相義』にある「六塵に悉く文字あり、法身は是れ実相なり」も同じ意味であろう。

The Dharmakāya Mahāvairocana is the original essence of all existence and the ground of mind. The three mysteries—the sublime pure activities of the body, speech, and mind of this Buddha—extend everywhere throughout infinite space, where they are arrayed as the maṇḍala. This maṇḍala is as if it were painted on the very fabric of infinite space, an infinitely vast canvas, using Mt. Sumeru for a brush and the waters of all the great seas for the ink. The universe is thus like a vast book written by the Dharmakāya Tathāgata. Each letter or dot therein contains all the phenomena manifesting in the world. All are articulations of the primordial language of the Dharmakāya, and all return to that source. Kūkai expressed the same thought in his *Shō-ji-jissō gi*, "The six sense objects are all *letters*. Dharmakāya is *reality* itself." (TKZ 3.38).



2013年度学園祭「曼荼羅祭」にご協力ご協賛いた だいた皆様ありがとうございました！（関連記事P6）

RISING KOYA SUN

■日本一標高の高い（?）大学から太陽を昇らせました。

Contents

1 NEW TYPE Religious Awakening File#002
特集 ―発心したニュータイプ僧侶― 今雪 雅子

3 ROAD_RUNNER File#003
道を歩む僧侶たち 富田 向真

4 高野山大学名誉教授の称号を授与されて 日野西 眞定

5 高野山大学 フジキン小川修平記念講座講演会

6 学園祭 高大連携での伊都高校生との書道交流 弘法大師の足跡を訪ねよう

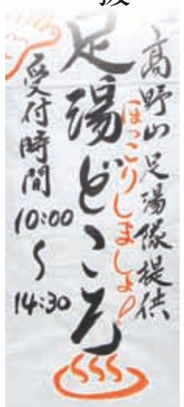
7 東日本大震災復興支援活動から学ぶ連続講座 講師派遣制度をご利用ください 寄付金のお願い

8 大学通信 日録

9 真言宗連合高野大学設立（黒門）時代～ 高野山大学史#02 木下 浩良

10 同窓会だより 第44号

15 高野山大学東日本大震災復興支援 災害ボランティア活動に参加して



16 平成26年度 入学試験日程

17 Words of Wisdom by Kukai File#02
遊山慕仙詩幷序 Thomas Eijō Dreitlein

今、お坊さんが来てる。高野山へ

I'll be a fine arts teacher & a nun (female priest).

美術の道と僧侶の道は夢へと通ずる!

人の道を説ける美術教員目指してまっしぐら!

高校時代の木炭デッサン

Q1 高野山大学への進学動機を教えてください

A1 以前(広島大学)では美術教員を目指して学んでいました。しかし、4回生になって自分の生き方を改めて考えた時、父や祖父のような住職になって人の苦悩や生死と向き合える人間になりたいと思いました。家族と以前の大学で美術教育を指導してくれた先生にも相談しましたが、両者とも応援してくれたことが進学を決意する後押しになりました。

Q2 高野山大学の印象は?

A2 授業の前に般若心経を読経したり、毎月21日は奥の院に御参りに行ったり、普段の大学生活にも弘法大師や仏教が深く結びついている点に一番驚きました。

小学生の時の自画像

Q3 高野山大学で興味を持ったことや知識を深めたいと思ったことは?

A3 仏画の授業を履修したことがきっかけで、仏画制作の魅力に心惹かれるようになりました。今では授業の他に月2回の仏画道場に通っています。信仰と芸術の密接な関係について制作を通して学んでいきたいです。

広島大学時代のテラコッタの弥勒菩薩

今雪 雅子(僧名:心雅)
1990年10月13日生まれ　3回生
<出身>香川県
<出身高校>香川県立三本松高等学校
<出身大学>広島大学教育学部
造形芸術系コース
<前大学取得資格>
中・高教諭一種免許状(美術)
学校図書館司書教諭免許

いろんな世代の人と友達に!

雨の日の霧が出るのも魅力的

Q9 卒業後の目標や将来の夢を聞かせてください。

A9 住職と美術教員の両立が現在の目標です。常に学び続け、世代を問わずに人に寄り添える住職であり、教育者でありたいと考えています。

Q10 高野山大学をめざす受験生にメッセージをお願いします。

A10 初めて大学へ入学される方だけでなく、他大学で学ばれていたり、社会人として仕事をされていたり、様々な立場の方が受験されることと思います。高野山という地だからこそ学べる仏教の精神や知識を、是非一緒に学び合っていきたいです。

Q7 高野山で生活して学んだこと、得たことは?

A7 この土地が放つ特別な空気や雰囲気、そのものが師であり、それを体感することがすでに学びに繋がっていると感じます。

Q8 高野山大学で学び、どんなところが成長しましたか?

A8 授業を通して弘法大師がいかに博識で行動力のある素晴らしい方だったのかを知ったことで、今の自分の至らなさを見つめなおすようになりました。意識が変わったことで普段の授業や検定の勉強などにもより意欲的に取り組めるようになりました。

父が在学中に使っていた辞書で勉強!

Q4 興味を持っている授業と、理由を教えてください。

A4 茶道の授業です。作法や、日本人としてのたしなみも身につけたいと思い履修しました。授業を通して茶道には、季節や道具、軸、花など、多くの要素が必要だと知りました。亭主が演出家となり茶室を演出する総合芸術のようだと感じるようになり更に面白いと感じるようになりました。

Q5 高野山で学ぶ魅力はどこですか?

A5 日中も夜も静かで学習に集中出来る環境が一番の魅力だと思います。また、いろんな世代の方が在籍されているので、今までの自分では見出せなかった視点や意見を頂けることが面白いと感じています。

Q6 どんな課外活動をされていますか?

A6 宗教教育部の活動にボランティアとして参加した際、森林セラピーで高野山に来ていた子供たちと触れ合うことが出来ました。プレゼントでこうやくんのイラストを描いて、予想以上に喜んでくれたことがとても嬉しかったです。

ROAD_RUNNER File#003

上求菩提

最前線の道を歩む僧侶

Koushin Tomita

在家出身だった私が幼少の頃に抱いてた将来の夢はお坊さんになることでした。お坊さんが無理ならば、学校の先生になれたらいいなと考えていました。そのような漠然とした夢を両方叶えるために必要なことを与えてくれたのが高野山大学でした。

高野山大学では紫雲寮で4年間を過ごしたのですが、入学間もない頃、大学で受講する授業の時間割は先輩が指導してくれる慣わしでした。私は仏教学科の先輩の部屋に伺い、どの授業を受講するかさっぱりわからないまま言いなりに受講する授業を決めていきました。「この先生は単位をとりやすいし、この先生は単位くれないから…」そしてその先輩は「お前はとりあえず教免を取っとけ」と教育免許を取るための時間割を組んでくれました。

さらに寮監であった浅井先生から「君を今年の夏の四国遍路に連れて行く。ご両親にも許可を取ってあるから」といわれ、4年間夏休みを利用して徒歩遍路をさせていただきました。大学の友人からバスケットボールのクラブチームを作ろうと誘われ、それがきっかけとなって大学在学中のほんの短い間、高野山高校のバスケットボール部のコーチをさせていただきました。

バスケット部のコーチという名目がきっかけで高野山高校に奉職することとなり、教育免許をもっていたおかげで教壇に立つことができ、宗教科の大きな行事の一つである四国遍路研修は私が四国遍路の経験があることから奉職した2年目に始まるなど、高野山大学での先生・先輩・友人、不思議なくらい様々な出会いによって、現在の自分が形成されています。その時は気付かなかった深い縁を今振り返ると、すべて高野山大学での出会いが始まりであったことを痛感いたします。

現在はお大師さまの教えを高校生たちに伝えるということが、現在の社会の中ではどれだけ貴重なことなのかということを日々噛み締め、共に勉強できる生徒たちがいることに日々感謝いたしております。

profile: 富田 向真 〈昭和47年生　京都府出身〉
高野山大学仏教学科卒業
現在　高野山高等学校教諭　宗教科主任

名誉教授インタビュー

高野山大学名誉教授の称号を授与されて

高野山真言宗僧階1級（大僧正）日野西眞定

平成二十五年の六月一日付を以て、私は高野山大学藤田光寛学長先生から「名誉教授」の称号を与えられた。授与いただいた「名誉教授称号記」には、「第二十七号」とある。高野山大学の名誉教授の称号の順番が二十七人目ということであろう。

今回、学報編集の担当者の方から、名誉教授授与に際して何か一文をしたためて欲しいとの要望を受けた。昔話になるが、小生のことを少し披露させてもらって、その責を果たしたいと思う。

私の経歴をいうと、少し変わっている。生まれたのは、中国の「大連」である。中国といいながら、この大連市には、大勢の二十万人程の日本人が住んで居た。それで、日本人子弟の教育のための中学校も数校あった。旧制なので五年間在学せねばならなかった。

もちろん、男子が入学するものと、女子のための学校があった。男子は、一中・二中や商業があった。女子が入学するのは、女学校であった。まだ太平洋戦争が終わる前だったので、日本の勢力が強く、この日本人の学生が進学するための学校に、中国人の子弟も進学を希望するケースもあった。そして、中学校を卒業すると、日本本土にある大学へと進学する人もあった。しかし、この制度は、日本が戦争に負けると、たちまちに崩れてしまった。日本人は日本人の学校、中国人は中国人の学校に進学することを原則とした。

私は、大連市でも、田舎の小野田という所で暮らしていた。それで、そこにある小野田小学校に行った。そこには、セメントを作る会社があった。大きな山があり、それを崩しては、セメントを作っていた。

そこでも中心になったのは日本人で、中国人を使い会社を経営していた。私の父親は、そこの小学校の先生をしており、母親は看護師をしていた。兄弟は五人で、みな男の子であった。長男は一番頭も良く、奉天にある医大に進学した。日本が戦争に負け、内地に引き上げて来たが、名古屋帝大の医学部に転学し卒業して外科医となり、中程度の病院に就職した。

私は次男であったが、少し変わっていて僧侶の道を選んだ。受験雑誌を見ていると、僧侶になる者の一番適した大学として、高野山大学があることを知った。そこで、誰一人知る人もいない、高野山大学に進学して来た。

ところが、これには今から考えると、非常な幸運に恵まれていたものだった。大学では五来重先生に出会えたのである。そして五来先生は、天徳院の金山穆韶師を紹介してくださった。当時の高野山では、最高の名師として尊ばれていたお方である。私は、こうした名師と御縁が結ばれたのは、遠く外地の中国から来たということがあったからだと思われる。

五来重先生

五来重先生は、東京帝大の哲学を学ぶコースを終えられ、さらに大学院に進まれていた。金山先生は当初、この先生を高野山大学の密教学の教授にしたいと、強く望まれていた。一時、この間に、五来重先生は、高野山大学に勤められていたことがあった。それは、金山先生の助手として勤務なされていた。

しかし五来先生は金山先生の意に反して、東京帝大で学んだ後は高野山ではなく、今度は、京都帝大で学ぶことを望まれていた。しかも、専門分野が違う日本史を学ぶためであった。これには、金山先生はひどく力を落とされた。私はこれを何度か、金山先生ご自身から聞かされた。当時、京都帝大には日本史を研究している、西田直二郎というすぐれた先生がおられた。その方は、民俗学を導入した先生であった。

一例を言うと、その先生の年中行事の「お盆」は、実はものを入れるための「お盆」を示しているという説であった。これは、確か柳田国男先生の説であったと記憶しているが、これを五来先生の口から何度か耳にしている。そして、五来先生は、民俗学の研究を導入された。私は、これを授業中何度も聞かされた。そして、先生独自の研究法を考案された。私達は、これをしっかりと受け入れ、今日に至るまで研究法としている。

五来先生の研究方法は「佛教民俗学」で、文献ばかりに頼るのではなく、民俗学を導入したものだった。東京帝大に比べ、京都帝大の方には、物の考え方に包容力があり、これが時おり力を発揮していると、私は考えている。

西田幾多郎の西田哲学も、京都帝大で考えられた。金山先生も当時、ここの研究者を盛んに招いて、教えを請うておられた。或る時、私が「何故ですか」とお尋ねすると、明確に、「密教の研究を進めるためだ」と言われたのを覚えている。

私には何故か、こうした大家に気軽にその本心を聞き出し、それに答えていただくことがあった。また、私はご教示いただいたそれらを、一心に守るところがあった。これが関係者の信頼を得たものと思っている。

活動報告 #01　高野山大学
フジキン小川修平記念講座講演会

【第1回】　参加人数／300名

●日　時　平成25年8月10日(土)　16:00～
●会　場　ナレッジキャピタル　コングレコンベンションセンター(大阪市北区)
●講　演　①関　出氏(東京藝術大学教授)
「日本画とその画材　―自然の活用と伝統の知恵―」
②藤田　光寛氏(高野山大学学長)
「他者への思いやり―仏教・密教が説く倫理―」

【第2回】　参加人数／600名

平成25年10月13日(日)、大阪市中央公会堂にて
「高野山大学フジキン小川修平記念講座講演会
宇宙の摂理への想い―科学と宗教の立場から―」と題した講演会を開催しました。

昨年に引き続き二度目となる、大阪市中央公会堂での本講演会では、最先端科学の専門家である3人の先生方を講師としてお招きして講演およびパネルディスカッションを行い、約600名の参加者とともに、最先端科学と宗教との関わりについて考える時間を持ちました。

●日　時　平成25年10月13日(日)　12:30～
●会　場　大阪市中央公会堂大集会室(大阪市北区)
●講　演　①松本　紘氏(京都大学総長)
「科学と思想の相互越境への挑戦」
②西川　伸一氏(JT生命誌研究館顧問)
「ダーウィンが来た:新しい因果性の科学」
③村上　和雄氏(筑波大学名誉教授)
「心は遺伝子の働きを調節する」

●パネルディスカッション
・コーディネーター　中村　本然氏(高野山大学密教文化研究所長)
・パネリスト　棚次　正和氏(京都府立医科大学教授)
生井　智紹氏(高野山大学名誉教授)
西川　伸一氏
村上　和雄氏

20世紀からの科学の急速な発展に伴い、私たちを取り巻く環境も、数十年前と比べて大きく変わってきました。しかしながら一方で、生命倫理の問題、環境問題やストレス社会の出現など、人間存在をゆるがせかねない様々な問題も浮き彫りとなってきていることも、また事実です。これらの現代的な諸問題は、生命とは何か、こころとは何か、環境とは何か、といった根本的な命題と密接に関わっています。今日、私たち一人ひとりがこの根本的な命題を問いかけながら生きていく必要に迫られていると言っても過言ではないでしょう。

今からおよそ千二百年前、弘法大師空海は、今日私たちが直面しているこの問いを解決する糸口を、「真言密教」という形で大成しました。真言密教では、山川草木すべてのものが「いのち」を持ち、私たち一人ひとりと本来的には同質のものであるという壮大な生命観・宇宙観を有しています。弘法大師の「真言密教」の教えを教育理念の根幹におく高野山大学が、弘法大師の教えを今日にどのように生かし得るのか。このことを世に問うことを目的として、本学では故小川修平氏のご遺志として㈱フジキン会長 小川洋史氏から頂戴した寄付金をもとに、平成24年度より、「宗教と科学の対話」をテーマとする「高野山大学フジキン小川修平記念講座」を開設いたしました。

今年で2年目となるこの「高野山大学フジキン小川修平記念講座」では、高野山大学密教文化研究所に、研究課題「宗教と科学の対話プロジェクト」を立ち上げ、学外の科学者・宗教学者も交えた研究会を行い、講演会に向けたディスカッションを行ってきました。その活動を通して、世界に先駆けての「ヒト・レニン」遺伝子解読や、『生命の暗号』・『遺伝子オンで生きる』などの著作で知られる筑波大学名誉教授の村上和雄先生を密教文化研究所特別招聘顧問にお招きし、「いのり」と「遺伝子」との関係についての臨床実験なども視野に入れた研究活動を推進しています。

この「宗教と科学の対話プロジェクト」研究会における一つの活動報告の形として催された今回の講演会では、3名の先生から、科学と宗教・思想・哲学を包含した「総合学」の提唱や、「情報」をキーワードに生命を捉える最新研究の視点、さらには遺伝子と笑い・祈りの関係など、多岐にわたるご講演をいただきました。また、続くパネルディスカッションでは、宗教学・密教学の立場も交え、「生命とは何か?」という問題についての緊張感あふれるディスカッションが展開され、多くの参加者が熱心に聞き入っています。

今後も、「高野山大学フジキン小川修平記念講座」では、真言密教の現代的意義を考えるため、密教文化研究所の「宗教と科学の対話プロジェクト」研究会の活動を通して、このような講演会を開催し、一人でも多くの方に、現代の諸問題を考える上での一つの道標を発信していくことを目指しております。

学園祭

学友会総務本部委員会　学園祭運営局長・曼荼羅祭実行委員長　四回生　石元里奈

入学して二年間、高野山大学は年々学生数も減り、活気もどんどん薄れていくように見え、数年間学祭もなく、なにか「若者の活気を爆発させる場」のない状況に諦めムードが流れていました。私はその状況を打破したい!!と感じていました。

私の亡くなった父は、高野山大学生時代に学園祭実行委員長をしていたそうです。周りの方々が父の開いた楽しかった学園祭の思い出を話して下さいました。そういう背景もあり、私も父のような偉大な人になりたいと思ったし、亡くなってしまった今出来る恩返しとして、父をふくめ先輩方の受け継いできた学園祭を途絶えさせたくないし「誰もやってくれない」のではなく「誰もやらないなら自分が復活させよう。」そういう思いで昨年、曼荼羅祭を復活させるに至りました。

サブタイトルの『RISING KOYA　SUN』には、日本一標高の高い高野山大学から、若者のパワーの太陽をかかげ、高野山大学はもとより高野山や東日本、日本全体を照らしていきたい、という思いが込められています。

そして今年も曼荼羅祭を無事開催する事が出来ました。ここ二年間の曼荼羅祭は、もちまき・定食早食い・女装コンテスト等の伝統のある企画も残しつつ、被災地チャリティー企画・書道パフォーマンス等徐々に新しい風も取り入れる内容になっています。また学内だけでなく、高野山商工会青年部・青年団、高野山高校生徒会、和歌山大学高野七口活性化プロジェクト等のみなさんとも交流し、刺激を受けるいい機会にもなっています。

人数も資金も少なく学祭の規模にも限界があります。けっして楽しい事ばかりではなく、正直辛く厳しい部分の方が多くあります。その中でも試行錯誤しながら数名の実行委員で準備・運営してきました。学内・学外問わずたくさんの方々のご協賛・ご協力により開催することが出来たということ、楽しかったと言ってくださる方々がおられることも忘れずに、ぜひ来年からも曼荼羅祭という伝統を引き継ぎ、10年・20年と続けていってほしいと思います。

ご協力してくださった全ての皆様、本当にありがとうございました。

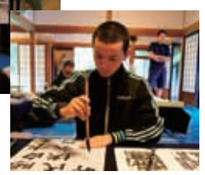
高大連携での伊都高校生との書道交流

文学部(書道担当)助教　野田悟

私は高大連携の一環として、伊都高校にて書道の授業を行っており、今年度で二年目になります。総勢八名の生徒が熱心に勉強されていて、中には小学校より書道をずっと続けている生徒もいます。将来は、高野山大学で書道を学びたい生徒が二名程いることも漏れ聞いております。

去る九月十五日(日)は昨年と同じように無量光院にて、大学書道部の合宿の中で、伊都高校との交流がなされました。しかし当日は台風が近づくということで、朝から雨が降っていましたし、来ていただけるのかと心配もしました。しかし、蓋を開けてみると、昨年より多い七名の女子生徒が参加してくださり、またそれ以上に驚いたのが、伊都高校の引率の先生が三名も来て頂いたということでした。昨年の交流が好評だったらしく、今回は午前十時より夕方まで有意義な時間を過ごせたと思います。

まずは先生方を含めた自己紹介から始まり、大学生の条幅作品の批評、その後はお互い筆を持っての揮毫会の雰囲気になりました。交流に慣れない高校生を、大学生が面白おかしくリードする姿が印象的でした。伊都高校の先生方は我が高野山大学にどれだけの在家の学生がいるのか非常に興味を持っておられました。この高大連携は、現在和歌山県において唯一のものであり、また十年以上続くこの連携において実際に大学生と交流することは長年の夢であったと申された時は、「これまで双方においていろいろ苦労があったのでは?」と感じずにはいられませんでした。



昼からは台風接近のため、雨が強くなってきましたが、みんなで霊宝館にて高野山の宝物を見学しました。四回生の安田空源君の案内により、仏像をどのように見るのかの説明は、伊都高校の先生、生徒全員が大変な興味を示され、非常に盛り上がりました。雨の中での移動はやや大変でしたが、再度無量光院に戻り、一緒に記念撮影をして交流会が終了しました。帰り際、伊都高校の生徒たちはだいぶ和んできた様子で、皆うちの学生と話し込んで先生方を待たせるというハプニングつきでした。来年以降も、どのような形であれ、このような高大連携での交流は続けるべきだと感じます。最後にこの場に及んで今回の交流を陰で支えていただいた教務課の後藤課長にお礼を申し上げたいと思います。

弘法大師の足跡を訪ねよう

高野山大学　密教学科三回生　河野真英(全鳳)

10月5日(土)～10月6日(日)　1泊2日

高野山大学では、弘法大師(空海)の足跡を訪ねて、日本各地に残る弘法大師ゆかりの自然・歴史・文化遺産に直接触れながら、大師の生涯や教えについて学ぶという現地学習会を企画しました。今回は第一回ということで、大師の誕生地の讃岐地方(香川県)を訪れました。

私は、昨年の「宗教科教育法」という大学の講義の中で、「空海のご誕生」というテーマで模擬授業を行いました。その際に、お大師様がお生まれになられた善通寺について深く調べた事で、知識が増えると共に、実際に訪れてみたいという気持ちが大きくなっておりました。そんな高いモチベーションを胸に、今回の現地学習を兼ねた参拝にのぞみました。

ご誕生地の善通寺、幼少期に誓願捨身された出釈迦寺(捨身ヶ嶽禅定)、満濃池等、それぞれのお大師様の足跡地で、私達が高野山大学として訪れている事から、ご厚意により、本来ならば拝観できない場所を特別に拝見させていただき、ご説明を受け、細部まで堪能する事ができて、本当に勉強になりました。

善通寺では、管長猊下様を始め、皆様に大変篤く歓迎していただきました。高野山大学出身の先輩方が僧侶として、お勤めされておりました。朝勤行に参加させていただいた時は、高野山とはまた違った作法や加行の様子等も拝見する事ができ、同じ真言宗でもこの様な違いがあるのかという驚きがありました。

出釈迦寺でも、高野山大学出身のご住職を始め、皆様に、お忙しい中、とても快く歓迎していただき、奥之院禅定根本御堂を開けていただき、お大師様が誓願捨身された聖地までの行場を、丁重にご案内していただきました。

私達は、高野山大学出身の先輩僧侶が各地でご活躍されているお姿を目の当たりにし、強く感激すると共に、私達後輩を思ってくださる心に、深く感動しました。一泊二日という短い期間でしたが、私は僧侶として一皮むけたような経験をする事ができました。私個人で訪れていたとしたら、これ程、学び、成長する事はできなかっただろうと思います。高野山大学生として、先生や学友達と共に歩み、先輩方との出会いがあったからこその賜物です。そして皆々、深くお大師様を信仰していて、高野山を慕い、高野山大学に特別な思いを持っているのです。この貴重な参拝は、私の心に深く刻まれ、大切な思い出となりました。

活動報告 #02

密教文化研究所では、“東日本大震災復興支援活動から学ぶ連続講座”を開催しました。

第5回 10月23日（午後1時～5時 松下講堂黎明館）　ノンフィクション作家石井光太先生、来学！
石井先生原作の映画『遺体－明日への十日間－』（主演:西田敏行）上映。

演題「『遺体』から見えてきた宗教の原点について」

被災地の遺体安置所では何が起こっていたのか？　遺体や遺族にどのように接することが大切だったのか？　被災地でのルポルタージュ『遺体』が映画化される過程では、どのような流れや思いが交錯して作品が出来上がってきたのか？　現場での取材体験と作品とをふりかえりながら、宗教の原点や人と人とのつながりの根幹について、ご講演いただきました。

第6回 10月30日（午後1時30分～4時 高野山大学本館2階第3会議室）

演題「被災地におけるDMORT活動の可能性について」

講師:山崎達枝（DMORT研究会幹事）

DMORT（ディモート）とは何か？　被災地で遺族支援を行うためのチームに必要なものは何か?遺体安置所での識別と修復、検視検案、遺族への連絡と対面時のサポート、中・長期的なグリーフケアにつなげる上で大切な視点は何か?DMORTに関する知識と経験を携えて被災地に赴いて感じたこと、気づいたことなどについて、ご講演いただきました。

第7回 11月27日（午後1時30分～4時 高野山大学本館2階第3会議室）

演題「取材を通じて想うこと、伝えたいこと」　講師:喜多村龍介（六大新報社代表）

福島第一原発事故による本宗被災寺院の現状と、宗教者として反原発運動に取り組む小浜市真言宗御室派明通寺ご住職中嶌哲演師についてのご講演と、喜多村龍介先生ご自身が真言宗寺院のご住職であるお立場から、歴史的現実を前にしての真言教学や信仰の在り方について、お考えの一端をご披露いただきました。

講師派遣制度をご利用ください

各機関（本山・宗団・同窓会・宗務支所・高野山真言宗寺院など）さまへの本学教員の講師派遣は、大学公務として取り扱っております。

【講師派遣お申込み手順】
1.ご希望の講師名、日時、場所、講演テーマを、本学総務課へご連絡ください。
　・お電話　0736-56-2921
　・ＦＡＸ　0736-56-2746
　・E-mail　shomu@koyasan-u.ac.jp
2.講師との調整がとれ次第、依頼主さまへ折り返しご連絡いたします。
3.「講師派遣依頼書」を提出してください。

【注意事項】
1. 講演料（手取り額）
　60分　　¥20,000
　90分　　¥30,000
※講演料のみを講師に直接手渡してください。
2. 交通費・宿泊費は、本学にて負担します。（「高野山大学旅費規程」による）
3. 講演が複数日あるいは長時間にわたる場合の条件は、講師と直接調整してください。
4. 大学を経由せずに、直接講師へ依頼する場合は、この申し合わせの対象外とします。
※講師派遣依頼の申込は、HP掲載の様式をお使いください。
HP http://www.koyasan-u.ac.jp

寄付金のお願い

高野山大学では、同窓生をはじめ、皆様からの寄付金を募集しております。

これは、現在取り組んでいる、高野山霊宝館との連携や学習・就職支援室の運営などをはじめ、大学での教育・研究活動の充実と質の向上を目的とした寄付金の募集でございます。

頂戴いたしました寄付金は、
○大学の設備・備品費などの諸経費
○地域との連携事業の経費
○学習・就職支援室の活動費
などに用いさせていただく予定でおります。

高野山大学では、学生や社会に選ばれる大学を目指し、“魅力ある学校づくり”をキーワードに、これからも様々な教育改革に取り組んでまいります。皆様におかれましても、高野山大学への引き続きのご支援を心よりお願い申し上げます。

このご趣旨に賛同いただける方は、お手数をお掛けいたしますが、高野山大学総務課（電話0736-56-2921、FAX0736-56-2746）までご連絡ください。ご連絡をいただきました方には、大学から、
○寄付申込書
○寄付金用振替用紙
○返信用封筒
をお送りさせていただきます。なお、寄付金は、一口二千円以上（税金控除証明書発行可能）とさせていただいております。

皆様のご支援とご協力を、重ねてお願い申し上げます。

【ご注意】今回の学報に同封しております振替用紙は、同窓会費の振替にのみご利用ください。

大学通信

【夏季集団加行】

平成二十五年度夏季集団加行が高野山大学大菩提院（尼僧は寶壽院尼僧部道場）において行われました。総持院宮田永明師（尼僧は専修学院門主中西啓寶師）に伝授阿闍梨をお勤め頂き、前期は八月二日から九月十八日、後期は八月七日～九月十八日までの間、僧房に住して瑜伽行に専念しました。

前期加行者八名（内尼僧一名）
後期加行者六名（内尼僧一名）

【学位記授与式】

平成二十五年九月十三日（金）午前十一時から本学第二会議室において、第八十六回学位記授与式（九月）が挙行され、大学院三名が修了しました。
大学院修士課程（通信教育課程）三名

【平成二十五年度　高野山大学教職員並びに先輩物故者追悼法会】

十一月二日、松下講堂黎明館に於いて、平成二十五年度の「高野山大学教職員並びに先輩物故者追悼法会」を、理趣三昧法会にて厳修しました。本法会は、本学に関係された全ての教職員並びに先輩物故者の尊霊の追善仏果菩提を祈り、供養する法要です。例年、本学の開校記念（五月二日）行事として、秋の学祭期間に振り替えて行っております。

導師、藤田光寛学長を始め、職衆として、本学の大菩提院にて夏季加行を修した学生、東日本災害ボランティア活動に参加した学生、現地学習会「弘法大師の足跡を訪ねよう」に参加した学生、並びに教職員が出仕しました。

壇上密壇前に、位牌、過去帳、角塔婆をお祀りし、修法、読経しました。読経中、参列した学生全員が焼香を行いました。角塔婆は書道部の学生が書き、法要後、教職員によって、奥之院の高野山大学墓所に建立しました。

職衆並びに承仕として、以下の学生の皆様に出仕いただきました。小松龍正（通信大学院二回生）、木原大智、新後宗弘、安田空源（以上、密教学科四回生）、惠良果蓮、大津堯空、河野全鳳、後藤田亜光、笹山泰良（以上、同三回生）、佐竹弘全（同二回生）、越智大和（別科二回生）、以上十一名の学生です。

【伝法灌頂】

平成二十五年十一月六日（水）、大本山寶壽院道場に於いて、寶壽院門主中西啓寶師を大阿闍梨にお迎えし、春季、夏季に大学の大菩提院道場で加行成満した学生等が入壇しました。
入壇者十二名（内尼僧四名）

【伝統教学復興プロジェクト】

『大日経』講伝

平成二十五年十二月九日（月）、十日（火）の二日間、高野山大学松下講堂黎明館に於いて、高野山真言宗管長総本山金剛峯寺座主松長有慶猊下（高野山大学名誉教授）を大阿闍梨にお迎えし、六月の第三会に引き続き、第四会を開筵しました。宗団内外の僧侶約八十名が受講しました。来年度、引き続き、第五会、第六会を開筵いたします。

【活動報告　公開講座】

高野山大学では今年度も「こころの教育」を基本テーマに各種公開講座を開催いたしました。毎回多くの方にご参加いただき盛況裡に終えることができました。教職員スタッフ一同、心よりお礼申し上げます。

次年度の公開講座は只今計画中です。内容が決まり次第、ホームページ等でお知らせいたします。

日録（8月～12月）

〈8月〉
1 木　第3回密教文化研究所研究会
4 日　夏季通信スクーリング最終日
7 水　夏季集団加行開始日
10 土　高野山大学フジキン小川修平記念講座講演会「うめきた第3回「宗教と科学の対話」プロジェクト
11 日　第5回高野山学
17 土　通信夏季研究発表会
22 木　前期成績通知（郵送）
23 金　前期成績通知（郵送）
26 月　再試験願提出日（～9／2）
29 木　再試験願提出日（～9／2）

〈9月〉
3 火　再試験日
6 金　大学院通信入試（一次）合格発表
13 金　学位記授与式（9月）
14 土　高野山大学公開講座（大阪）
14 土　保護者懇談会（大阪）
14 土　第6回高野山学
18 水　夏季集団加行最終日
24 火　後期授業開始日
25 水　第4回東日本大震災復興支援活動から学ぶ連続講座
28 土　大学院前期入試／大学院通信二次面接

〈10月〉
2 水　第4回密教文化研究所研究会
4 金　後期受講科目届変更期限
10 木　卒業論文目次届／修士論文目次届提出期限
13 日　高野山大学フジキン小川修平記念講座講演会（大阪中之島）
14 月　特別授業開講日
18 金　高野山大学公開講座・瞑想実習（大阪）
19 土　第7回高野山学
21 月　報恩日
23 水　第5回東日本大震災復興支援活動から学ぶ連続講座
25 金　高野山大学公開講座・瞑想実習（東京）
25 金　高野山大学同窓会・いろは支部総会・記念式典
30 水　第6回東日本大震災復興支援活動から学ぶ連続講座

〈11月〉
2 土　追悼法会／学園祭
2 土　オープンキャンパス
3 日　学祭
4 月　特別授業開講日
5 火　秋季通信スクーリング開始日
6 水　伝法灌頂
9 土　秋季通信スクーリング最終日
9 土　併設校・寺院後継者・指定校入試
13 水　第5回密教文化研究所研究会
15 金　高野山学園理事会・評議員会
16 土　第8回高野山学
16 土　日本チベット学会（～11／17）
21 木　報恩日
24 日　第4回「宗教と科学の対話」プロジェクト
27 水　第7回東日本大震災復興支援活動から学ぶ連続講座
30 土　公募制推薦入試・編入・別科二次入試

〈12月〉
9 月　「大日経」講伝
10 火　「梵唄會～ボンバイエ～」音楽祭
16 月

平成26年度同窓会総会のご案内

日　時

平成26年5月29日（木）

『総　会』午後3時～
『懇親会』午後4時30分～（会費5,000円）

場　所

於　高野山大学

TEL 0736-56-2921
（内線 112・116）

※現役学生にも案内します。
同窓生の皆様のご参加をお願い申し上げます。
尚、出席者の人数を確認致したく存じますので、同封の葉書にて
ご出席の場合のみ4月30日（火）までにご返信くださいますようお願い申し上げます。

備前支部より

去る3月10日午後4時より、西大寺観音院にて、東日本大震災物故者三回忌追悼法要が執り行われました。

まず牛玉所殿内で主催である高野山大学同窓会備前支部会員に加えて、高野山真言宗備前支所下及び御室派備前支所下寺院、並びに高野山真言宗備前青年教師会会員の合わせて54名の僧侶らにより法要が営まれました。

その後境内へ移動し、近隣より参列された一般の方と共に被災地の方角へ向け、御詠歌を唱えるなか献灯献華を行い、最後に経木塔婆七百枚をお焚きあげ供養し、厳粛に三回忌追悼法要を終えました。

備前支部総会

平成25年5月26日（日）午後6時より、岡山全日空ホテルにおいて、大学本部より3名、備前支部会員25名が参加し、総会を開催いたしました。

開会の辞、坪井全広会長より挨拶、平成24年度会計報告の後、役員改選が行われました。

全会一致にて平成25年度よりの新会長に、福田寺全亘師が就任いたしました。

続いて高野山大学法人本部の和田友伸事務局長より、大学の現況報告を説明していただきました。

その後、内海照隆同窓会会長の乾杯発声で懇親会が始まり、盛会のうちに終了となりました。

（事務局　北村増紹　記）

広島県同窓会

平成25年6月11日（木）午後6時半より、第30回高野山大学広島県同窓会を広島地区担当にて開催いたしました。

30回目となる今回は、広島の街並みと穏やかな瀬戸内の海が一望できる高台にあるレストランを会場とし、廣安会長はじめ古賀副会長・高塩副会長、総勢18名の方々にお集まりいただき、和やかに楽しいひと時を過ごすことができました。

高野山大学より法人本部事務局長の和田友伸様が出席くださり、「平成25年度事業計画」の資料に基づき、現状報告及び方針など説明がなされました。

引き続き懇親会に移り歓談、互いに在学当時の思い出や近況の報告、高野山大学への想いなど語りあい、盛会のうちに今年度の同窓会を終えました。

（事務局　竹原善生　記）

九州支部（鎮西会）総会

九州支部

去る6月11日（火）、別府・杉乃井ホテルにおいて、九州支部（鎮西会）総会が開催されました。当日の出席者は、33名でした。

当日の概要は次のとおりです。

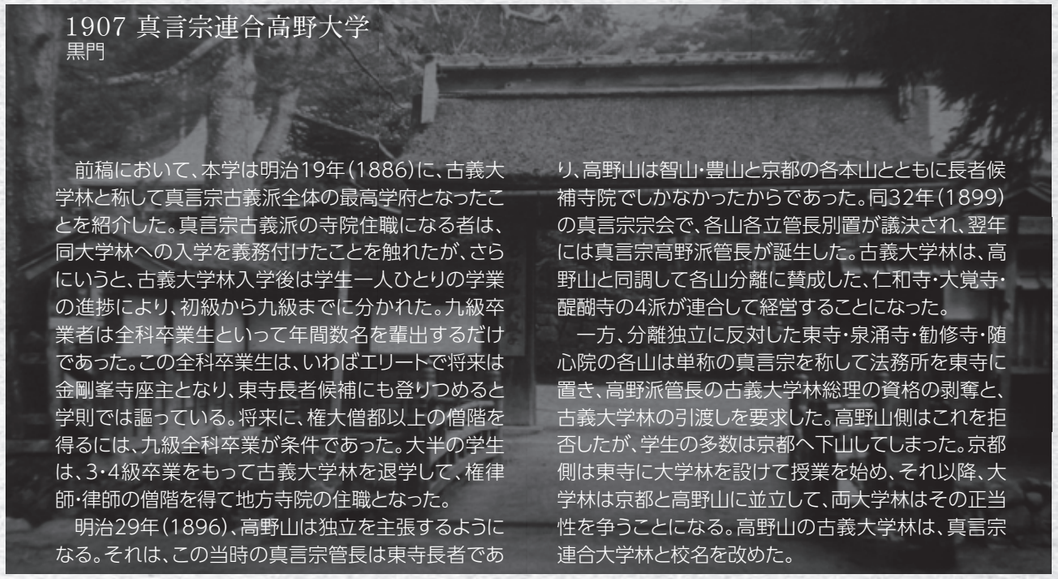
定刻午後4時30分、高瀬覚照事務局長の経頭により支部先輩物故者に御法楽を捧げ、江頭弘勝支部会長より挨拶の後、金丸宥韶師を議長に選出し議事に入る。議事要旨は次のとおりです。

一、平成24年度会計報告
・異議なく承認されました。

真言宗連合高野大学設立（黒門）時代～

高野山大学史#02

本学図書館課長心得・研究所事務室長心得　木下 浩良


1907 真言宗連合高野大学
黒門

前稿において、本学は明治19年（1886）に、古義大学林と称して真言宗古義派全体の最高学府となったことを紹介した。真言宗古義派の寺院住職になる者は、同大学林への入学を義務付けたことを触れたが、さらにいうと、古義大学林入学後は学生一人ひとりの学業の進捗により、初級から九級までに分かれた。九級卒業者は全科卒業生といって年間数名を輩出するだけであった。この全科卒業生は、いわばエリートで将来は金剛峯寺座主となり、東寺長者候補にも登りつめると学則では謳っている。将来に、権大僧都以上の僧階を得るには、九級全科卒業が条件であった。大半の学生は、3・4級卒業をもって古義大学林を退学して、権律師・律師の僧階を得て地方寺院の住職となった。

明治29年（1896）、高野山は独立を主張するようになる。それは、この当時の真言宗管長は東寺長者であり、高野山は智山・豊山と京都の各本山とともに長者候補寺院でしかなかったからであった。同32年（1899）の真言宗宗会で、各山各立管長別置が議決され、翌年には真言宗高野派管長が誕生した。古義大学林は、高野山と同調して各山分離に賛成した、仁和寺・大覚寺・醍醐寺の4派が連合して経営することになった。

一方、分離独立に反対した東寺・泉涌寺・勧修寺・随心院の各山は単称の真言宗を称して法務所を東寺に置き、高野派管長の古義大学林総理の資格の剥奪と、古義大学林の引渡しを要求した。高野山側はこれを拒否したが、学生の多数は京都へ下山してしまった。京都側は東寺に大学林を設けて授業を始め、それ以降、大学林は京都と高野山に並立して、両大学林はその正当性を争うことになる。高野山の古義大学林は、真言宗連合大学林と校名を改めた。

明治34年（1901）、単称の真言宗も高野山の4派連合に参加して5派連合が誕生する。大学林は、真言宗各派連合大学と改称して再び高野山に置くと決した。ところが、同40年（1907）大学は京都と高野山に、真言宗連合京都大学・真言宗連合高野大学として再度並立となった。同42年（1909）真言宗連合高野大学は専門学校令の認定校となる。同44年（1911）には新校舎が落成し、教授陣も充実したとされている。

本学の正門である黒門ができたのも、この明治44年の時であった。それまでの冠木門から、入母屋造の屋根付きの門に改められた。同門は、古義大学林の裏山にあった行人方の東照宮へと行く登り口にあった門を、移転したものだった。門に向かって右側には出格子窓の番所を配置した造りとなっている。

黒門跡

旧制大学時代は、東京帝国大学の象徴である赤門（現在、国指定重要文化財）にもじって、「東の赤門、西の黒門」と言って自負していたとされている。当時の本学は、東京帝大より高楠順次郎・木村泰賢・宇井伯寿・出隆・福来友吉らが教授として招聘され、他にも京都帝大から松本文三郎、東洋大学からは小野玄妙など全国的にも著名な教授陣による講義がなされていた時代であった。

また、歴史的に考察しても、黒門は興味深い。赤門は旧加賀藩主前田家上屋敷の御守殿門で、江戸時代後期の文政10年（1827）前田斉泰が第11代将軍徳川家斉の第21女の溶姫を迎える際に造られたものに対して、黒門は江戸時代初期の寛永年間に東照宮が建立された際の附属建造物だと推定される。この仮説が正しいとなると、黒門は赤門よりも200年程古い建造物であったことが指摘されるのである。

なお、黒門は本学が現在地に移転されると、昭和7年（1932）再度移転されて大学の正門となったが、同25年（1950）ジェーン台風により全壊してしまった。現在は、同門の礎石を掲げて黒門跡として顕彰している。

二、次回開催地および日程
・宮崎県とし、支部事務局と調整しながら日程を決定することとなりました。

議事終了後、福西同窓会事務長より会務報告、藤田光寛学長より大学現況報告及び支援要請等があり、懇親会・二次会を経て、次回の再会を約して盛会裡に散会となりました。明年の支部総会は宮崎です。多数のご出席をお願い申し上げます。

（同窓会事務局　記）

和歌山支部総会

高野山大学同窓会和歌山支部では、平成25年6月29日(土)に県民交流プラザ和歌山ビッグ愛に於いて、公開講座と総会を開催しました。

午後2時から、和歌山大学非常勤講師・小山響城先生に『江戸時代の高野山と紀州藩』と題されご講演を賜りました。

講演内容は、「和歌山と言う地名は、豊臣秀吉が「和歌浦」とお城の所在地「岡山」の地名から「和歌山」と名付けたと天正13年7月2日の手紙に記される。天正13年3月22日の紀州攻めで、太田城や根来寺(1万人の僧が居た)、粉河寺等が焼き討ちに遭った。高野山には当時4・5千人の僧が居たが秀吉軍に屈した、客僧であった木食応其上人の働きにより全山焼失は免れた。高野山は中世には広大な荘園を有し周辺地域にその影響を及ぼしてきたが、以後、寺領は21,000石となる。その後も、学侶方と行人方との領地争いが耐えなかった。また、農民に揆も起こり対応に苦慮した歴史がある。等々」

午後4時から和歌山支部総会が開催され、全ての議案が承認された。

午後6時から懇親会を行い、夜が更けるまで昔話や今後の大学に寄せる思いが語られ、友好の輪が広まった。

（事務局　伊南陽弘　記）

和歌山支部

北海道支部総会

高野山大学同窓会北海道支部では、平成25年9月4日(水)午後3時より、札幌ジャスマックプラザホテルに於いて、支部総会並びに同窓会発足二十周年記念事業として、記念講演を開催致しました。

講師に高野山霊宝館館長・高野山大学名誉教授・静慈圓先生に「現代中国に甦る空海」についての講演を頂き、引き続き、総会・懇親会に移り、総会では本部より川口道雄同窓会副会長・和田友伸法人本部事務局長・福西勝久同窓会事務長の出席を頂き、松尾支部長・川口副会長の挨拶、和田事務局長からは大学の現況と展望について報告を頂きました。

尚、総会にて支部発足二十周年記念事業の一環として、大学の方へ部寄附をさせて頂く事が全会一致で承認されました。

その後、懇親会に移り、盛会のうちに今年度の同窓会を終えました。

出席者(順不同・敬称略)
秋山有洋・油屋泰澄・笠谷教正・国本弘泰・郷司隆澄・琢磨俊秀・琢磨幸尚・谷澤克夫・豊澤弘範・西内隆真・西内真雄・福家立雲・堀内隆勝・松尾正善・丸山泰観・宮下栄隆・山田俊光・山本智弘・静　慈圓・川口道雄・和田友伸・福西勝久

（事務局　油屋泰澄　記）

北海道支部

兵庫県支部総会

平成25年9月27日(金)午後2時より、ウエスティンホテル淡路において、高野山大学同窓会兵庫県支部総会を淡路地区担当にて開催いたしました。

御法楽の後、湯口宥彦支部長(淡路市・成楽寺)が挨拶、内海照隆同窓会長、藤田光寛学長から祝辞を戴きました。

協議では、平成24年度の会務・会計報告・監査報告・次期支部役員承認・本部理事増員の要望が承認され、続いて和田法人本部事務局長より、学園現状報告及び今後の大学の方向性についてご講演を戴きました。

その後、川口道雄同窓会副会長の挨拶で懇親会が和やかに始まり、盛会のうちに今年度の同窓会総会を終えました。

（淡路地区担当　堀部光正　記）

兵庫県支部

いろは支部 総会・記念式典

去る10月25日(金)、高野山大学に於いて、いろは支部総会・記念式典が開催されました。

定刻10時総会。御法楽を捧げ、川口道雄支部長挨拶の後、議長を選出し議事に入る。決算、予算案共に異議なく承認され、大学支援広報活動の強化、高野山内公衆トイレの清掃活動の継続を確認。

総会終了後、午後1時より記念式典挙行。御法楽、御来賓ご祝辞、校歌斉唱のあと、川口支部長より「高野山大学教育研究助成金」の贈呈がありました。

いろは支部

いろは支部

引き続き、久米田チャイルド・スクール園児のマーチングバンド、田中理恵さん(日体大)・田中章二先生(和歌山北高校)による体操演技指導と記念講演をお楽しみいただきました。

今年も、500人を超える皆様の御臨席を得て、盛大裡に式典を執り行うことが出来ました。心より御礼申し上げます。有り難うございました。

（西原司朗　記）

二三の会

高野山大学同窓「二三の会」(新制2・3回卒業)の本年度例会は、岡山県の当番で、6月6・7日の両日、特別参加を含めて18名参加のもと、瀬戸内児島ホテルで開催された。

二三の会

四三会

第5回高野山大学「四三会」を平成25年6月24日(月)～25日(火)の両日、横浜市・ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテルにおいて開催した。

6日午後6時集合し、記念撮影後、杉井永明師の開会の辞で始まり、幹事・上西孝道師の歓迎の挨拶、3月24日に遷化した和泉全恒師を始め、先亡者の追悼を山口耕榮師の経頭で般若心経一巻を唱和した。

参加各自の近況報告・校歌・学生歌を斉唱後、毎年ハワイより参加の川西実仁師の乾杯の音頭で祝宴に移り、夜遅く迄旧交を深めた。

7日は朝食後、ホテルを出発、史蹟の野崎家旧宅を見学後、参加者同の希望で予定を変更し、由加山蓮台寺を参詣した。突然の訪問にもかかわらず、山主佐伯増恒僧正の丁重なる歓迎を受け、茶菓の接待、お土産を頂き、備前の名刹の参詣を感激被に終り、岡山城・後楽園を車窓より見学、ホテルグランヴィア岡山で中華料理の昼食後、来年の京都での再会を楽しみに散会した。

参加者(順不同・敬称略)
河西密雄夫妻・廣安俊道夫妻・長原敬峰夫妻・北原久禅・山口耕榮・三星光・泉龍雄・山本宣昭・杉井永明・上西孝道・平尾隆信・川西実仁

【特別参加】大多賀実忍・教海俊應・今村寛玄　以上

（長原敬峰　記）

四三会

24日は、物故者追悼のための黙祷を捧げた後、担当地区幹事の本多清法師が挨拶を行い、記念撮影から懇親会へと移った。

乾杯に続き参加者の近況報告や事務局報告を行い、楽しい話に花を咲かせ、校歌斉唱の後、次期開催の北海道代表者からの挨拶で閉会となった。

翌25日は、ホテルを9時に出発し、マイクロバスで鎌倉八幡宮・長谷観音・高徳院大仏などを観光し、鎌倉パークホテルでの昼食後、江の島を観光して横浜駅で散会した。

参加者(五十音順)
荒木本恵、大田光俊、大岡眞海、岡　寛善、岡部観栄、笠井法真、金子弘信、川村光雅、佐伯英雄、仙波諦仁、玉井勝順、玉田一陽、中村紀志夫、新後純雄、西本宥法、白馬義文、平岡恭博、細谷宥勝、本多清法、渡辺真憲

（同窓会事務局　記）

高野山大学 昭和38年入学生同期会

平成25年10月9日(水)、兵庫県姫路市を会場に、標記同期会が開催された。危ぶまれた台風24号の影響も殆どなく、予定どおり午後6時開会。

今年は大学入学から丁度50年に当たり、また、それぞれが古稀(数え年)を迎える意義深い年が重なり、有意義な内に旧交を温めることが出来ました。

後に「三八豪雪(さんぱちごうせつ)」と名付けられた大雪に迎えられ、秋には全国的な学生運動の余波を受けた前代未聞の全学同盟休校、翌年の東京五輪開催と経済の高度成長時代、昭和40年の高野山開創千百五十年等々忘れることのない学生時代の思い出話に時間の過ぎることを忘れる位であった。

翌10日は、「平成の大修理」が2015年春完成を迎える世界遺産国宝・姫路城を見学。エレベータに乗り、海抜100メートルに設置された最上階から、恐らく再び見ることが出来ない匠の技が結集された大修理の様子を興味深く見学した。昼食後、来年の大阪での再会を約束してそれぞれ帰途についた。

出席者(五十音順)
今井奉一、今村純訓、江頭弘勝、越智淳仁、鬼本文夫、川瀬良禅夫妻、桐村明昇夫妻、小松原雅康・菅梅素弘夫妻、鈴木賢浄、曽我部大晋、田中真瑞、多門誓信、中島真隆、林智敬、藤村隆淳、松田俊教

（文責　藤村隆淳）

高野山大学昭和38年入学生同期会

同窓通信

去る3月10日、高野山大学同窓会備前支部の主催で、東日本大震災物故者三回忌追悼法要が、西大寺観音院にて執り行われました。ふだんは農業をしている私も、この時ばかりはと頭を刈って衣を着て参上いたしました。

法要の内容は、「土砂加持作法附、理趣三昧」。皆気合いが入っていて凄かったですよ(54名)。何時もの同窓会なら、懇親会でお酒飲んでのんびりしているイメージなのですが、この日は違っていました。「いざとなれば、奇跡を起こし大願を成就する。それゆえ、我らは秘密仏教の僧侶なのだ」。そう思いましたね。

柴田　泉(浩禅)
昭和51年度入学

高野山大学東日本大震災災害復興支援活動ボランティア活動に参加して

高野山大学 4回生　安田 空源

「東北の被災地支援のなかで我々が足湯という方法を選ぶ理由として、我々僧侶が修する仏足頂礼の教義があり、来ていただく人の御足を仏足として頂き、その垢を落とさせていただく。これは、我々が“してあげる”のではなく、“させていただく”ものだ」

この言葉は私たちが、今回参加させていただいた金剛峯寺のボランティアにおいて、ご指導下さった辻雅栄師にいただいた言葉です。私たちが今回赴いた宮城県南三陸町は先の震災の被災地の中でも特に被害が大きかった地域でもあり、町の主要部はほとんど何も残っておらず、まさに壊滅的という印象でした。私は二年前の震災から約一か月後の4月に一度南三陸町に訪れたことがあるのですが、当時はまだ町内のほとんどは立ち入りできず、瓦礫で埋め尽くされていました。現在も建物はほとんど建っておらず、埋め立ての工事車両が行き来するばかりでしたが、跡地は草木に覆われ、電柱なども新しく建てられ、時間の経過を実感しました。

東日本大震災の被災地支援に関して、私にはずっと懸念していたことがありました。それは、「二年もたった今、個人レベルで行える被災支援などあるのだろうか?」ということです。時間が経った今、ボランティアも多様化しすぎて、もはや被災者の方がなにを求めているのか、ニーズがどこにあるのだろうか?という悩みが私の中で存在していました。

そもそも、いつまでが「震災後」なのだろうか?いつまでも被災者扱いしていいのだろうか?という不安もありました。なので、今回金剛峯寺のボランティアに参加させていただき、この目で、いま求められている支援、求められる姿勢を確かめようと思いました。

もし被災地にとって不要なら自然と人は来ないし、もしそうなったとしても決して悪いことではなく、むしろ復興してゆく過程の自然な流れで、そうなって初めて被災地は被災地でなくなるのではないだろうか、と感じました。

そして、ある被災者の方からお話を伺って衝撃を受けたのが、在宅(家が残った被災者)と、仮設住宅に住む被災者の間に乗じる軋轢でした。ボランティアもメディアも世間も、被災者本人ですら、家が無い=被災者であり、家がある≠被災者という意識を無意識のうちに持っているという現実でした。ボランティアや支援物資も家が無くなった被災者に集中し、家が残った被災者は肩身の狭い思いをしているというのです。

これは非常に難しい問題で、おそらく後に大きな問題となるのではないでしょうか。おそらく、知らず知らずのうちに日本中の誰もがこの意識を持ってしまっていると思います。ですから、この現実を少しでも多くの人に知ってもらうことが必要だと思いました。

その方は「被災者も、いつまでも被災者ではいられない。被災地の子供たちは、支援を受けるのが当たり前になっていて、ありがとうも言えなくなっている。大人ですら言えなくなっている。だから、過去の震災や災害の知識が被災地には必要で、自分たちが“被災者”という立場から自立しないと、いつまでたっても震災は終わらない」とおっしゃっていました。

震災から時間が経つにつれ、ボランティアも、被災者も、どう行動するか難しくなるでしょう。その時、私たちになにができるのか。

高野山大学の学生がやれることはなんなのか。正直、高野山大学生は僧侶を志す人が多いにも関わらず、震災に関してほとんどの学生が無関心です。これは、大学のみならず宗門全体として忌々しき事態なのではないでしょうか。今一度、高野山大学生に問題提起をすべきだと思うのです。

平成26年度 入学試験日程

1、学部<入試日程>

試験種別	願書受付期間	試験日	合格発表	試験場
一般入学試験(前期)	平成26年1月7日(火)～1月29日(水) 消印有効	2月8日(土)	2月14日(金)	本学・ 大阪※・東京※
一般入学試験 (中期)	平成26年2月10日(月)～2月21日(金) 消印有効／窓口受付は28日午後4時まで	3月1日(土)	3月5日(水)	本学のみ
一般入学試験(後期)	平成26年3月3日(月)～3月14日(金) 消印有効／窓口受付は18日午後4時まで	3月19日(水)	3月20日(木)	本学のみ
編入学試験(後期) 社会人編入学試験(後期)	平成26年3月3日(月)～3月14日(金) 消印有効／窓口受付は18日午後4時まで	3月19日(水)	3月20日(木)	本学のみ
別科入試(第二次)	平成26年3月3日(月)～3月14日(金) 消印有効／窓口受付は18日午後4時まで	3月19日(水)	3月20日(木)	本学のみ

<入試科目／募集人員>　※大阪会場…YMCA学院高等学校(天王寺区南河堀町9-52)　東京会場…アルカディア市ヶ谷・私学会館(千代田区九段北4-2-25)

○一般入学試験(前期)　国語総合または英語Ⅰ・Ⅱ(50分100点)、小論文(50分100点)……15名
○一般入学試験(中期)　国語総合または英語Ⅰ・Ⅱ(50分100点)、小論文(50分100点)……若干名
○一般入学試験(後期)　国語総合または英語Ⅰ・Ⅱ(50分100点)、小論文(50分100点)……若干名
○編入学試験(後期)　小論文(50分100点)、面接……若干名
○社会人編入学試験(後期)　小論文(50分100点)、面接……若干名
○別科入学試験(第二次)　試問票、面接……30名(第一次・第二次合わせて)

2、大学院<入試日程>

試験種別	願書受付期間	試験日	合格発表	試験場
修士課程入学試験(後期) 博士前期課程コース 社会人コース 僧侶コース 博士課程入学試験(後期) 博士後期課程	平成26年2月10日(月)～2月21日(金) 必着	3月1日(土)	3月5日(水)	本学のみ

<入試科目／募集人員>

○修士課程　博士前期課程コース　入学試験(後期)
密教学専攻(密教学、英語、面接)……13名(前・後期合わせて)
仏教学専攻(仏教学、英語、面接)……8名(前・後期合わせて)
○修士課程　社会人コース　入学試験　(後期)
密教学専攻(密教学、面接)……若干名
仏教学専攻(仏教学、面接)……若干名
○修士課程　僧侶コース　入学試験(後期)
密教学専攻(密教学、面接)……若干名
仏教学専攻(仏教学、面接)……若干名
○博士後期課程　入学試験(後期)
密教学専攻(英語、専門科目、面接)……3名(前・後期合わせて)
仏教学専攻(英語、専門科目、面接)……3名(前・後期合わせて)

3、大学院(修士課程密教学専攻　通信教育課程)<入試日程>

試験種別	願書受付期間	一次選考合格発表日(書類選考)	二次選考日(面接)	二次選考合格発表日
修士課程入学試験 正科生	平成26年1月6日(月)～1月24日(月) 消印有効	2月7日(金)	2月22日(土)	2月26日(水)
修士課程入学試験 科目等履修生	平成26年1月28日(月)～2月28日(金) 消印有効	選考結果通知日	3月8日(金)まで(随時)本人へ通知	

<入試科目／募集人員>
○修士課程　正科生　入学試験(後期)
(書類選考・面接)……20名(前・後期合わせて)
○修士課程　科目等履修生　入学試験
(書類選考)……100名

●お問合せ　URL. http://www.koyasan-u.ac.jp　E-mail. nyushi@koyasan-u.ac.jp

授業体験　毎日がオープンキャンパス

高野山大学で、
体験授業してみませんか?
模擬授業ではなく実際の授業が、
毎日、在学生と一緒に受けられます。
在学生と一緒に食堂で食事もできます。
受験のことや学生生活のことなど何でも
気軽にご相談ください。
皆さまのご参加お待ちしております!

●月～金　9:00～16:00(祝日、夏季・冬季休暇、大学休業日を除く)
HPの申込みフォームからお申し込みください。事前に予約が必要です。
http://www.koyasan-u.ac.jp/admission/inspection/

活動報告　オープンキャンパス

11月2日(土)高野山大学オープンキャンパスを実施しました。学園祭(曼荼羅祭)が同日開催され、オープンキャンパス参加者には、学園祭で出店している学生食堂のカレーライスを提供しました。個別説明会ではオリエンテーション、学部・学科説明、入試説明、学生生活奨学金、就職説明、個別相談等が行われました。体験授業として国宝などの貴重な文化財が収蔵される「霊宝館」(高野山の正倉院)を解説して巡るツアーが実施されました。また、裏千家茶道部によるお茶会が図書館で開催され貴重な書物や茶器等を一般公開しました。学園祭(曼荼羅祭)を楽しんでいただき、キャンパスの環境や雰囲気を感じていただきました。